

2016年7月7日

No.265

又市征治 国政だより

又市征治事務所

発行責任者 東 篤

富山市下新町 8-16

TEL 076-441-0800

HP: www.s-mataichi.com

5月11日、ODA(政府開発援助)特別委員会は、マイナ・駐日ケニア共和国大使、エスティファノス・駐日エリトリア国大使から、アフリカ開発の今日的課題、日本及びTICAD(アフリカ諸国の開発を支援するために、日本が国際連合や世界銀行などと共同で開催する国際会議)に期待する役割に関して意見を聞き、質疑を行いました。

▷ 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の評価は ◁

最初に**又市征治議員**は、日本と両国の関係が発展することを希望する立場から、2015年の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「2030アジェンダ」の評価、特に重視している点について質問しました。

エスティファノス・駐日エリトリア国大使は、各国それぞれの開発に関する優先順位がある一方で、社会的インフラ、工業化、エネルギー問題はどの国にとっても重要であると述べました。そしてアフリカの海岸環境の開発は食料の安全保障の面からも重要であり、日本の支援が大きな役割を果たせるはずだと強調しました。また、金を輸出し小麦を輸入するのでは自分たちの敗北であり、これでは貧困や無学は解決されないと述べました。

マイナ・駐日ケニア共和国大使は、エスティファノス大使と同様に、医療、インフラ、投資、開発、そしてブルー経済(海洋経済)開発の重要性を強調し、専門性、テクノロジーを持つ日本の支援を求めました。また、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、アフリカ連合が2015年1月の首脳会合で決定した、包摂的成長と持続的開発に基づくアフリカの繁栄などを含んだ、2063年までのアフリカの政治、経済、社会に関する長期的ビジョン「アジェンダ2063」の枠組みと歩調を合わせ、時間的に一致したものでなければならないと述べました。



▷ 第6回TICADに期待するものは ◁

次に**又市議員**は、今年8月にケニアで開催される第6回TICADに対する両国の期待について質問しました。

マイナ・駐日ケニア共和国大使は、これからも有償資金に頼るわけにはいかないの、民間部門からのインフラ、環境、地熱発電等、最終的に工業化につながる投資を取り込むことが重要だと指摘しました。そしてアフリカ、日本とのビジネスアソシエーションのようなものを立ち上げたいと期待を表明しました。

エスティファノス・駐日エリトリア国大使は、日本が真剣にアフリカの国々との関係に積極的に関与してほしいと述べました。特に平和なくして開発もないので、平和のために取り組んでほしいと期待を表明しました。また官民による工業化の取組みを強化してほしいと要望しました。最後に、中東、シリア、イラクのような状況がアフリカで起きないようにする必要があり、この問題をTICADでは真剣に取り上げていただきたいと述べました。